

とき 土器について調べよう

「土器」とは、ねん土をこねて、器^{うつわ}の形にした焼きものです。日本で最初の土器は「縄文^{じょうもん}土器」と呼ばれ、今から1万年以上も前に作られました。その後、米作りが始まった2千5百年前ころからは、「弥生^{やよい}土器」と呼ばれる新しい土器が作られるようになりました。

じょうもん 縄文土器 (第1展示室)

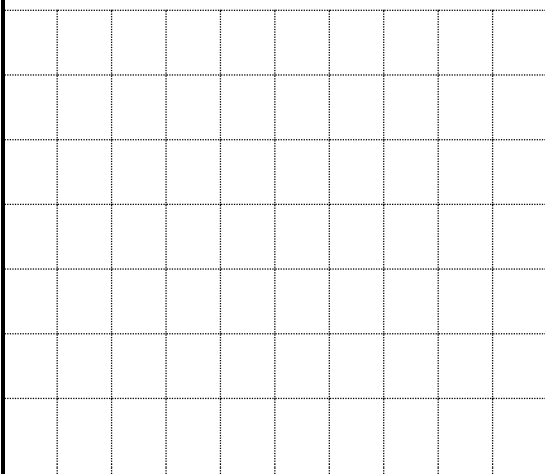
つぎの縄文土器をさがし出して、それぞれがどのくらい昔に作られたものを調べよう。



上の土器は、どのように用いられたでしょう。

やよい 弥生土器 (第1展示室)

弥生土器をひとつ選んでスケッチしよう。

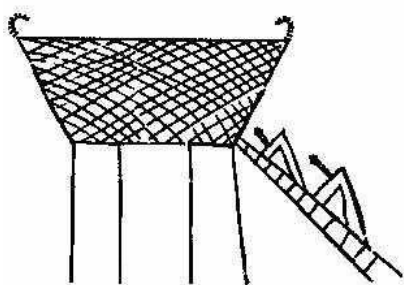


あなたがスケッチした弥生土器は、次の中のどれでしたか。(○でかこみましょう)

つぼ ・ かめ ・ たかつき

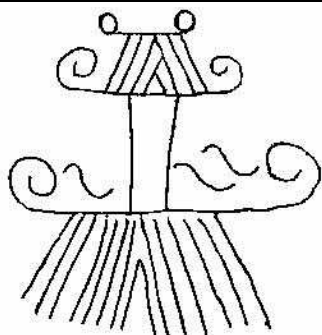
土器を使うようになって、人々の生活はどのように変わったでしょう？

絵がえがかれた**土器**をさがしてみよう！（第1展示室）



左の絵にえがかれた建物を何といいますか。

この建物の中には何を入れていたと思いますか。



左の絵は何をえがいたものでしょうか。

この絵にえがかれた土器は、奈良県の何という遺跡^{いせき}で見つかりましたか。

今から1700年ぐらい前には「古墳^{こふん}」と呼ばれる大きな墓がつくられるようになり、これ以降、土器を作る新たな技術が大陸から伝えられました。

す え き は じ き 須恵器と土師器（第2展示室・第3展示室） 須恵器と土師器とを比べてみよう！

須恵器	<ul style="list-style-type: none"> ○（ ）色のものが多い。 ○それまでの土器よりもかたくて、水もれしにくい。 ○作り方は（ ）半島から来た「渡来人^{とうらいじん}」によって伝えられた。
土師器	<ul style="list-style-type: none"> ○（ ）色のものが多い。 ○（ 縄文 ・ 弥生 ）土器とにている。（どちらかを○で囲もう）

☆土器についてもっと知りたい人は、映像（ビデオ）ライブラリーにも行ってみよう！

「分野」 → 「古代の技術」 → 「古代の土器」の順番に画面にタッチ

せっき 石器について調べよう

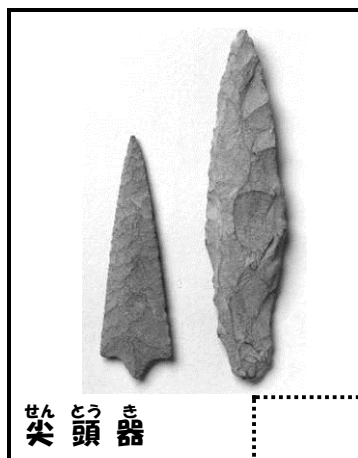
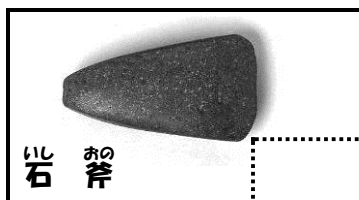
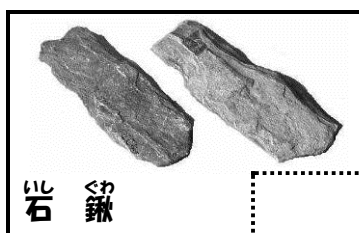
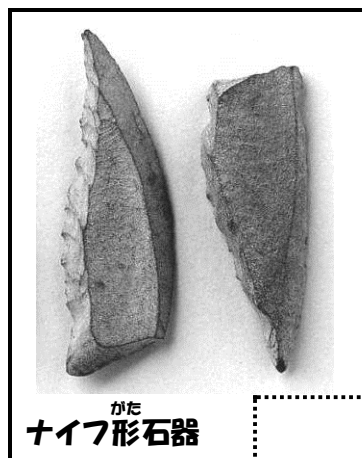
「石器」は、石を割ったり、みがいたりして作った道具で、使う目的によってたくさんの種類があります。人間が石器を作るようになったのは200万年以上も前ともいわれ、原始時代の人々の生活にとって、なくてはならない大切な道具でした。

石器について、次の問題に挑戦しよう！

問題1 奈良県で発見された石器で一番古いものは、今から何年ぐらい前のものですか。

問題2 かたくて、するとい割れ方をするので、石器の原石として利用された、香芝市の二上山でとれる石を何と言いますか。

次の石器を「第1展示室」の中でさがして、見つけたものには○をつけましょう。



次の石器はそれぞれ何に使ったのか、どのように使ったのかを考えましょう。

石 器		何に使ったのか？どのように使ったのか？
せき 石 ぞく 鎌		
いしざら 石皿と すりいし 磨石		[ヒント] 石皿の真ん中のくぼんだところに何がある。
ぎょぶつ 御物石器		※実は、この石器は学者にとってもまだ十%の道具です。 みなさんで自由に考えてみて下さい。
いしほうちょう 石庖丁		[ヒント] 2つの穴(あな)に、ひもを通して使いました。

はっ 発 てん 展

現在でも使っている「石で作った道具」にはどんなものがあるでしょうか。

☆石器についてもっと知りたい人は「映像（ビデオ）ライブラリー」にも行ってみよう！

「時代」→「旧石器・縄文・弥生時代」→「石器時代の和歌山」の順番に画面にタッチ

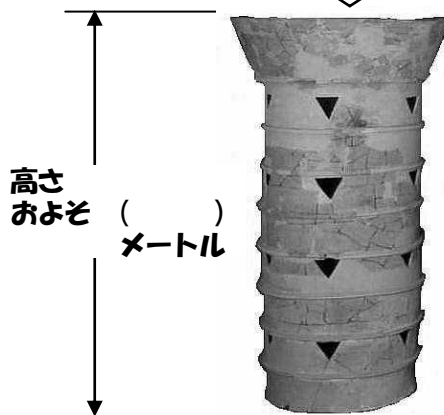
「はにわ」について調べよう

「はにわ」は、ねん土を焼いて作った土器で、古墳（豪族の大きな墓）の上にならべられました。「はにわ」には大きく分けて、円い筒のような形をしたもの（^{えんとう}円筒はにわ）と、人間・動物・家・さまざまな道具などの形をしたもの（^{けいしやう}形象はにわ）の2つの種類があります。

^{えんとう}円筒はにわ

この博物館にある
日本最大の「円筒はにわ」

今からおよそ1700年前
のものです。



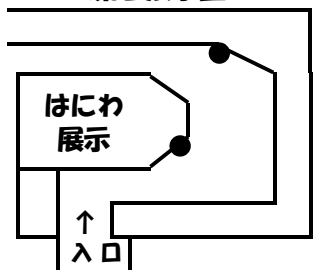
この「円筒はにわ」は、何という古墳で見つかりましたか。

どうして、こんなに大きなものをつくったと思いますか。

「円筒はにわ」にさわってみよう！

あなたがさわったのは、およそ1500年前の「円筒はにわ」のかげらです。さわってみた感想を書きましょう。

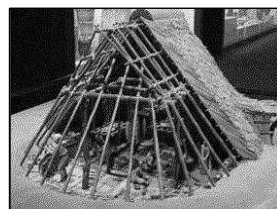
〈第2展示室〉



●印の2か所で実物にさわってみることができます。

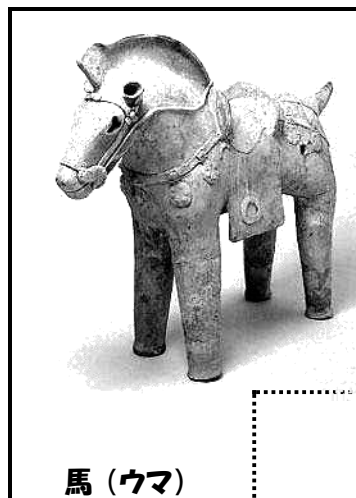
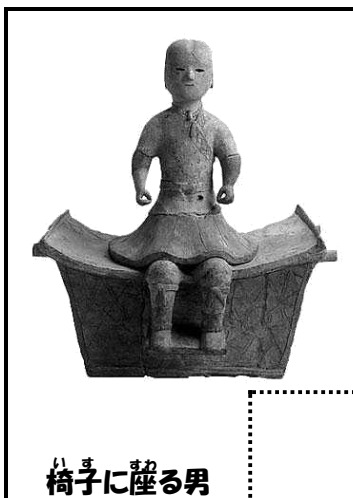
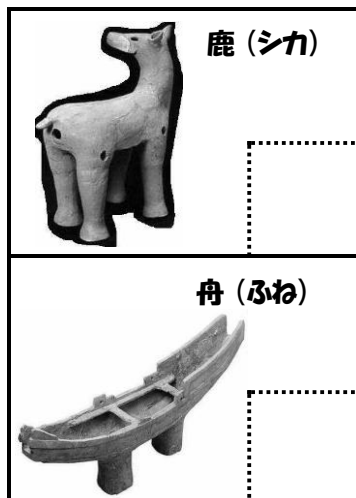
けいしょう 形象はにわ

「家形はにわ」をひとつ選んで、スケッチしてみましょう。



「たてあな住居」と比べてみて、どんなところがちがっていますか。

次の「形象はにわ」を「第2展示室」で探して、見つけたものには○をつけましょう。



さまざまな「形象はにわ」からわかる、当時のようすをまとめてみましょう！

☆「はにわ」についてもっと知りたい人は「映像 (ビデオ) ライブラリー」にも行ってみよう！

「時代」 → 「古墳時代」 → 「はにわの動物たち」の順番に画面にタッチ

こふん 「古墳」について調べよう

「古墳」は、3世紀の初めごろから、各地の王や豪族をほうむるためにつくられた墓です。ほとんどの古墳は、土をもったりしてつくった小山のような「墳丘」をもち、当時の王や豪族は、大きな「古墳」をつくることによって力の大きさを示したと考えられています。

古墳の種類

古墳は、「墳丘」の形によってさまざまな種類があります。空欄の古墳にそれぞれの形をスケッチしましょう。

			
円墳	方墳	じょうえん か ほうふん 上円下方墳	前方後円墳

ひつぎ 棺の種類


古墳の中にはさまざまな棺がおさめられていました。何とよばれているでしょうか。「第2展示室」や中庭に展示してあるのを探して、その名前を書きましょう。



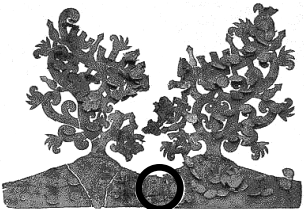

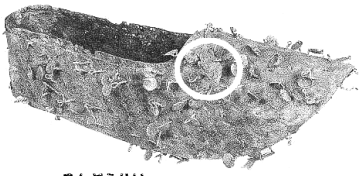
古墳におさめられたもの

古墳の石室や棺には、さまざまな品物がおさめられました。その品物から、王や豪族の力の強さや大陸とのつながりもわかります。

① 次のものを「第2展示室」で探して、それぞれの問題に答えましょう。

 <p>しゃりんせき 車輪石 これは何でしょう。</p> <p>()</p>	 <p>めいしょう 名称は () どんな色でしょう。 ()</p>
 <p>どうきょう ないこう か もんきょう 銅鏡 (内行花文鏡) 古墳によっては30枚もの鏡がうめられていました。どうして鏡をおさめたのでしょうか。</p> <p>()</p>	<p>かちゅう 甲冑と刀 これらの武器は何で作られていますか。</p>  <p>()</p>

② ふじのき いかるが 藤ノ木古墳 (斑鳩町) におさめられていたものを観察しましょう。

 <p>こんどうせい 金銅製 ()</p>	 <p>() 金具 (後輪) しずわ</p>	 <p>こんどうせい 金銅製 () ふくげんひん ※復元品が正面入り口にあるよ</p>
<p>○ の部分には、それぞれ動物がデザインされています。何でしょう？</p>		

☆古墳についてもっと知りたい人は「映像 (ビデオ) ライブラリー」にも行ってみよう！

「時代」→「古墳時代」→「古墳の形態」の順番に画面にタッチ

「分野」→「服装とアクセサリ」→「玉はよみがえる」の順番に画面にタッチ

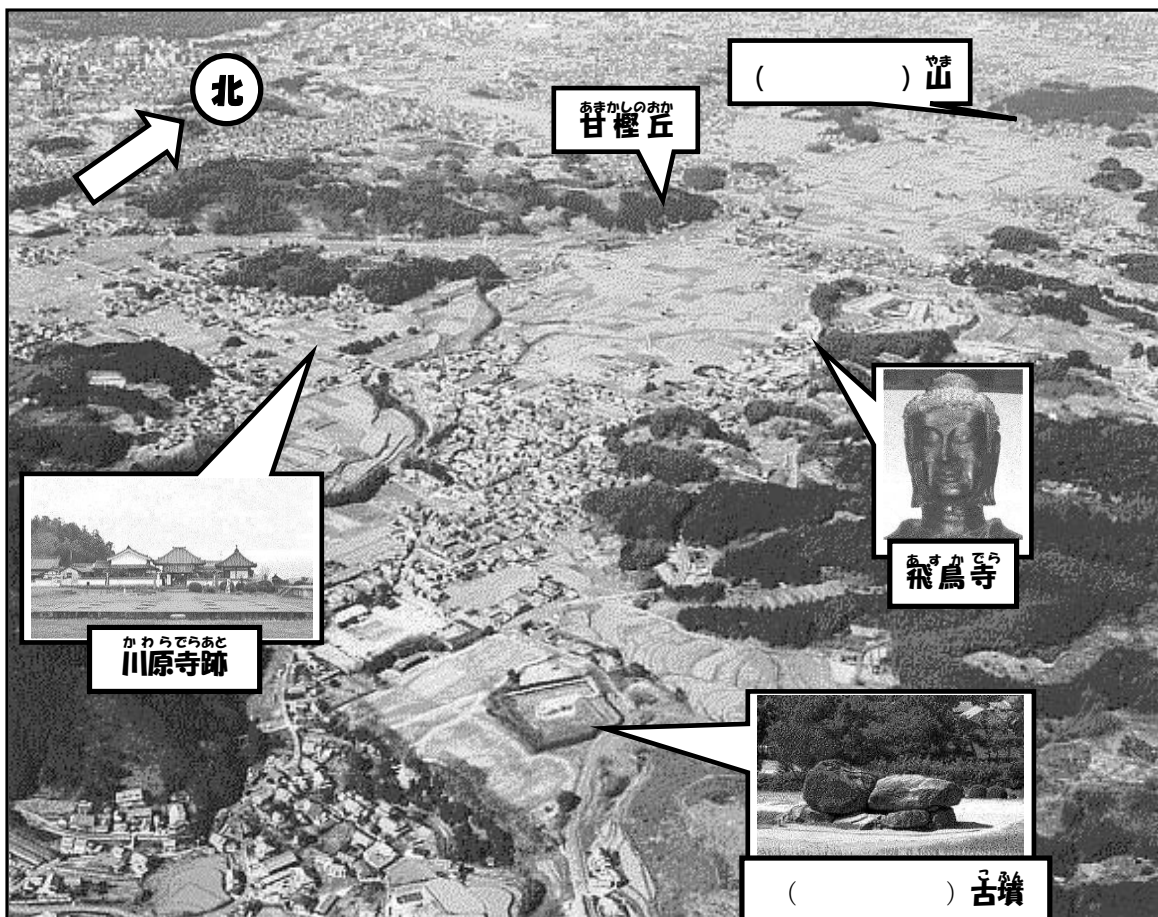
「発掘調査」→「古墳時代」→「藤ノ木古墳の開棺調査速報」の順番に画面にタッチ

あすかきょうせき
「飛鳥京跡」について調べよう

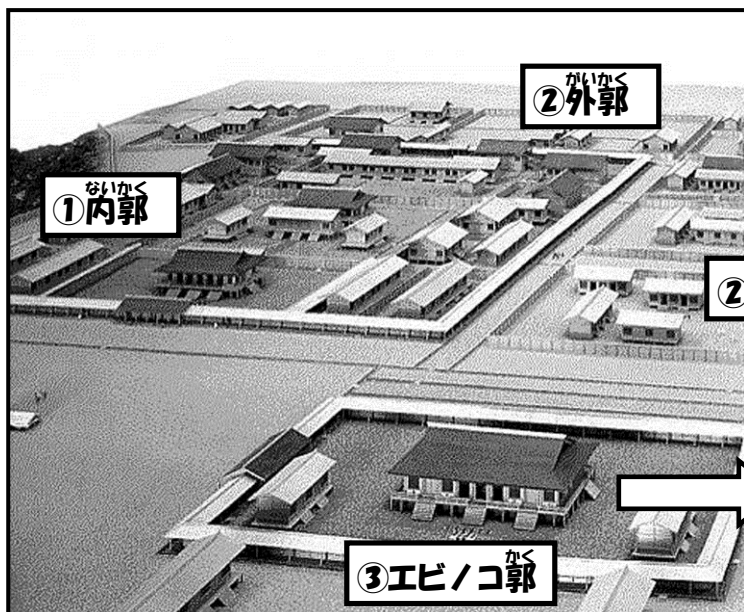
あすか かぐやま
飛鳥は香久山（香具山）の南、飛鳥川東岸の東西0.5 km、南北1 kmというせまい地域
です。「日本書紀」によると、592年に推古天皇が飛鳥（豊浦宮）で位につき、それ
からおよそ100年間にわたって宮都（天皇の住まい、政治の中心）はほぼこの飛鳥におかれ、
天皇を中心とした国づくりが進められました。

下の航空写真は、飛鳥の地を南東上空から撮影したものです。

- ①「飛鳥京跡」の位置を□で囲んでみましょう。
- ②山の名前と古墳の名前を（ ）に書きましょう。



第3展示室にある「飛鳥の宮」の模型は、673年に位についた天武天皇の「飛鳥浄御原宮」という宮殿を、これまでの発掘調査の結果をもとに復元したものです。



※「郭」とは、壁などで囲まれた場所のことです。



それぞれの「郭」を①～③の番号で答えましょう

天皇が国の儀式を行う→ ()

天皇が暮らしている→ ()

役所の建物が並んでいる→ ()

【ヒント】

タッチパネル⑥

「模型を見る」で調べてみよう

模型をよく見て、気がついたことをまとめてみましょう。

☆飛鳥京跡についてもっと知りたい人は「映像（ビデオ）ライフラリー」にも行ってみよう！

「分野」→「すまい・都市」→「宮と京（1）」の順番に画面にタッチ

「時代」→「飛鳥時代」→「復元・飛鳥の宮」か「復元・エビ/コ郭」の順番に画面にタッチ

「分野」→「すまい・都市」→「飛鳥の宮復元制図録」か「エビ/コ大館復元制図録」の順番に画面にタッチ

「木簡」から貴族や役人の生活を調べよう

^{すみ} 墨で書かれた木の切れはしのことを「木簡」といいます。奈良時代のころまでは、紙は貴重品^{きちようひん}でしたので、このように木の切れはしが紙の代用品^{だいようひん}として使われており、私たちに当時のようすを伝えてくれています。

- (1) ^{さだいじん} 左大臣（現在の総理大臣にあたる地位）^{ちい} だった長屋王^{ながやおう}の家のあとから発掘^{はくくつ}された「木簡」から、長屋王が食べていたものを調べてみましょう。

- (2) 右の「木簡」は平城京^{へいじょうきょう}「右京^{うきょう}」に暮らしていた高屋連家麻呂^{たかやのむらじいえ まろ}という下級役人（「少初位下^{しょうそいげ}」）というのは役人の中で最も下の位です）の6年間の働きぶりについて書かれた記録です。

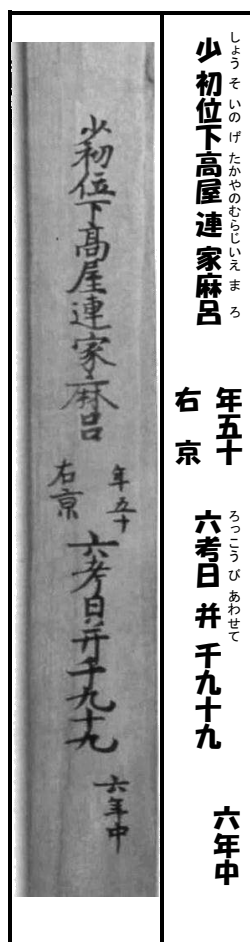
◇この木簡を展示室で見つけましたか。（ はい ・ いいえ ）

◇家麻呂は何歳ですか。 _____ 歳

◇家麻呂は6年間で何日働きましたか。 _____ 日

◇家麻呂は平均して、1年間で何日働きましたか。 _____ 日

◇家麻呂の仕事ぶりは、どのように評価されていますか。



少初位下高屋連家麻呂

右京 年五十

六考日并千九十九

六年中

- (3) 都の役人は、筆や小刀を使って紙や木簡に記録をつけていたことから「刀筆の吏^り」とも呼ばれていました。小刀は何のために必要だったのでしょうか。